

だ み よ く り に

No.761 令和 7 年 5 月 1 日発行



「はじめてを繰り返しながら」

八重桜が満開になった頃、気温が上昇し、初夏のような陽気の日もありました。新年度で緊張感のある時期に気温上昇……皆さん体調に変わりありませんか。毎日、子育て、家事、仕事、介護、療養、勉強……複数こなすことは大変なことです。どうかお体に気をつけてお過ごしください。

新年度が始まって 1 か月。お陰さまで園内は滞りなく、4 月らしい時間を過ごしました。数年前のコロナ禍を経験してからは特に、滞りなく園生活を提供できること、日常生活を送れることがいかに平和で大事なことを実感します。

子どもたちと過ごすわたしたち保育者の毎日は様々な経験ばかりです。秘めていてはもったいないので、ご紹介します。出てくる言葉に注目し、その様子を想像しながらお読みください。

- 着ていた洋服をわたしに指差す一歳のお子さま。そして「がーがー」と言います。洋服に描かれている恐竜のイラストを教えてくださいました。言葉が出始めた頃ならではのコミュニケーションでした。
- 室内遊びの片付けをしている年少組、アンパンマンのパズルが 1 ピースないことに気がつきます。そして 1 人から 2 人、2 人から 5 人……と皆で探し始めます。口に両手をあてて、「あんぱんまん」「あんぱんまん」。呼んで探していました。子どもたちには返事が聞こえたのかアンパンマンは無事に見つかりました。
- 園庭で遊んでいる姉妹のもとに年中のお姉ちゃんの友だちが来ました。友だち「いれて」お姉ちゃん「いいよ。わたしのいもうと。やさしくしてね」
- 朝の一斉登園時間、年長さんが年少さんのお世話をしようと玄関で待っていました。年少の保護者の方がお子さまの靴を持って渡そうとしていました。それに気がついた年長さんが保護者の方に声をかけました。「それもいいこうか」

ほっこりしますね。前半は子どもらしさ、後半は子どもの素晴らしさが表れています。このように、わたしたち大人は子どもたちから色んなことを気づかされ、教えられ、経験させられます。そして子どもにとっても、経験は重要です。ぜひご家庭でも「経験をする」ということを意識してみてください。ここで伝える「経験」というのはごくごく日常生活の中でのことで、特別なことではありません。例えば、日常生活の中で指先を動かすこと、目を見ること、話すこと、手を繋ぐこと、笑い合うこと、そっと見守ってもらうこと……このようなことです。些細なことのように思うかもしれませんが、日常生活の経験の積み重ねがとても大切で、子どもたちにとって育つために意味のあることです。子どもたちの育ちは、飛び越えることなく階段のように一段ずつのぼっていきます。上記のエピソードでも育ちの変化がわかると思います。連休などご家庭で過ごす際にぜひ、お子さまが「経験する」という視点で見てください。見え方が変わるかもしれません。必ず、今経験することが次の育ちにつながります。

そして、生まれて数年の子どもたちの気持ちがよくわかるぐっときた言葉「わからないんだもん」。これは今月 2 回聞きました。子どもたちにとっては「わからないこと」「はじめてのこと」だらけです。そのような子どもたちにわたしたち大人がやることは何でしょうか。

「子どもにとってどうか」と子どもの心に寄り添いながら、人としての良い手本をたくさん見せ、園では園でしかできない経験を積み重ねていきます。全てに意味がある！今月もどうぞよろしく願いいたします。